

平成 31 年度 県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」実施報告書 (6)

第 6 回「里山の色々な姿を学ぶ」

特定非営利活動法人ちば里山センター

題名	ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」 第 6 回「都市近郊の森づくり」 講義：「都市近郊における里山活動」千葉大学大学院園芸学研究科 准教授 柳井 重人 グループ討議：「印象に残った森づくり」コーディネーター 鈴木 恵子 ワークショップ：「私の森づくり」コーディネーター 鈴木 恵子
日時	令和元年 12 月 1 日 (日) 10:00~16:00
会場	千葉市民会館 4 階 第 1 会議室、第 2 会議室
出席者	受講生 14 名 (8 市) ・講師 3 名、スタッフ 1 名
内容	10:00~11:00 講義：「都市近郊における里山活動」 千葉大学大学院園芸学研究科 准教授 柳井 重人 11:00~12:00 グループ討議：「印象に残った森づくり」 コーディネーター 鈴木 恵子 12:00~13:00 昼食 13:00~15:00 ワorkshop：「私の森づくり」 コーディネーター 鈴木 恵子
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・第 6 回里山カレッジは千葉市民会館 4 階会議室で行われた。 ・午前中は千葉大学大学院園芸学研究科柳井重人准教授による「都市近郊における里山活動」について講義。引き続き「印象に残った森づくり」のグループ討議、午後の部はグループ討議を継続し、ワークショップ「私の森づくり」で木の実、葉、丸太などを使いクラフトを仕上げた。 ・かつての里山の風景は様変わりし、里山とは呼べない風景が広がっている。これをいかに地域に取り戻していくか。松戸市では市民団体を中心にして地域の財産となる里山を実現することが求められてきた。 ・里山や樹林地の保全活動を始めると地域にある資源として価値が認められる。同時に周辺の地域資源とつながりが求められる。例えば子どもの遊び場、小学校、保育園、都市公園、市民農園、駅前ロータリーなど。こうしたスポットとつながることで、地域における新たな価値が生まれてくるのではないかと期待が持てる。 ・樹林地が社会、地域につながっているという視点を持つことの大切さが強調された。 ・鈴木恵子さんコーディネートによるグループ討議では、クイズ形式の「木の付く漢字 1 分間でできるだけ書く」、次に「樹木名の漢字を 1 分間で書けるだけ書く」というアイスブレイクを行い、里山カレッジで見学した樹林地の「印象に残った森づくり」を各自でメモした。 ・昼食をはさんで「森づくりについて」であなたが「印象に残ったもの」、その理由を書きだした。 ・グループ討議では自己紹介に続けて里山への思いを語ってもらった。里山団体に所属する人は「若い世代へ引き継げないのが課題」と述べ、若い世代からは「土日しか行けないので、気軽に行

けて制約に引きずられない団体ならいけそう」と、双方の意気がマッチングしそうな端緒も感じられた。

- ・別のグループでは、里山を観光で活かしていきたい。昭和の日本人の暮らしを再現している。日本を訪れる外国人にはその雰囲気に触れてもらいたいとの提案であった。

- ・次のグループはヘイケボタルが再生した里山で、二か所で発見されたが、DNA鑑定では二か所とも別の個体から発生したことが分かった。ホタルの数の衰退は農薬の影響も考えられるので、今後も調査を続けていきたいとの発表があった。

- ・別のグループでは、新しい人が参加してくれそうなオープンな森づくりを心掛けたい。ともすると火事や防犯を心配するあまり閉鎖的になっている森が多いと指摘した。

- ・続けて、あなたの森を「小さな丸太のスライスの上に表現してみる」に挑戦した。木の実、マツボックリ、木の葉、木の実など思い思いにコーディネート、小さな森が出来上がった。

添付資料（写真）



柳井准教授の講義



受講風景



鈴木恵子さんによるグループ討議



グループ討議



木の実選びに余念なく



丸初めて使うグルーガン



グルーガン使用中



楽しい秋



個性のあふれる作品



季節に相応しい作品



作品を説明する受講生



作品を前に集合写真